

令和 2 年度 P T A 新聞

73 期生 卒業記念号（1）

令和 3 年 2 月発行
鳳高等学校 P T A 広報委員会

卒業生へ贈る言葉

P T A 会長 鈴木 啓祐

第 73 期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
保護者の皆様には、今日の良き日を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。平成 30 年 4 月、入学式で晴れて鳳高等学校の生徒としての第一歩が始まりました。全日制普通科単位制の特色を踏まえた多彩な授業はもちろんこと、クラブ活動や競技会、文化祭、修学旅行などの主体性を重んじた活動を通じて、貴重な経験を重ねてこられたことと思います。

わけても令和 2 年度は、皆さんにとって忍耐を求められた一年でした。新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、全世界の人々が人類史上かつて経験したことのない事態に陥りました。皆さんも、様々な制約の中で学校生活を余儀なくされましたが、こうした時ほど先生方から受けた助言や指導、友人の大切さを痛感されたのではないのでしょうか。

人が生きるうえで経験することは、大小を問わずむなしなものはなく、喜怒哀楽を感じながら、よく生きることを教えてくれると思います。大切なことは、こうした経験を自分自身の糧として活かしていくことだと言えます。

技術革新が著しい今日、鳳高等学校を巣立って新しい世界に船出する皆さんは、これからも様々な経験をすることでしょう。どんなに困難な状況であっても、これまでの経験で培った能力を遺憾なく発揮して、真剣に取り組むようにしてください。皆さんの真摯な取り組みが必ずや成功をもたらすものと信じています。

最後になりますが、皆さんがこれからの人生を、自らの手で切り開き、逞しく歩まれることを祈念して、イギリスの神学者ジョン・ウェズリーの言葉を贈ります。

君ができるすべての善を行え、
君ができるすべての手段で、
君ができるすべての方法で、
君ができるすべての場所で、
君ができるすべての時に、
君ができるすべての人に、
君ができる限り。

はなむけのことば

校長 田中 肇

73 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、高校卒業の節目に、入学時は幾分幼かった我が子が立派に成長した姿をご覧になり、感激も一入のことと存じます。今日まで深い愛情を注ぎ、お子様の成長を見守ってこられた皆様に敬意を表し、心からお祝いとお喜びを申し上げます。

卒業生の皆さんは、これからそれぞれの希望に応じた進路へと新たな歩みを進めることになります。そのはなむけとして、今年一年間私から皆さんに繰り返し伝えた『論語』の一節を、もう一度贈りたいと思います。

「君子固(もと)より窮す。小人(しょうじん)窮すれば斯(こ)こに濫(みだ)る。(衛霊公第十五)」
意味は、「君子も困窮することはある。しかし、小人は困窮すれば行いが乱れてしまう。そこが君子と小人の違いだ。」というものです。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症への対策のため 6 月まで臨時休校となり、学校再開後も行事や部活動など様々な活動が縮小や中止となりました。例年なら、皆さんが活躍できる場が少なくなる中、それでも皆さんは論語の言葉どおり、その時々に見えることを見極め、存分に力を発揮してくれました。どんな事態に見舞われても決して心を乱すことなく、自らの言動をコントロールし、前向きに対処できる力強さを、高校 3 年間を通じて身につけてくれたことの証左だと思います。

今、私達は非連続的と称されるほど、変化が急激で予測困難な時代の只中にいます。新型コロナウイルス感染症に関する状況も予測困難なものでした。状況が刻々と変化する中、学校をどう運営すればよいか、唯一の正解が見つかりにくい中、多くの人が納得できる納得解を導くことが必要となりました。

これから先、皆さんには、様々な場面で納得解を導くため、直面する事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な人々と協働的に議論することが求められます。そのために、特定の分野に関する学習だけではなく、分野横断的な知識や新たな技能を学び、それらを使いこなして次へと挑戦する旺盛な意欲を持ち続けてください。大丈夫。皆さんなら必ずできると信じています。

卒業生の皆さんへ

教頭 端村 誠

73期生の皆さん、卒業おめでとうございます。73期生の3年間は波乱に満ちたものでしたね。それを乗り越え、卒業の日を迎えた皆さんに改めて敬意を表したいと思います。

保護者の皆様におかれましては、お子様の人生の一つの節目を迎え、感慨もいかばかりかと拝察いたします。誠におめでとうございます。また、これまでの間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございました。

さて、卒業する皆さんに伝えたいことが2つあります。

1つめは、「決めつけない」こと。自分自身で「これ以上は無理」と限界を設けたり、「こんなことやっても意味がない、役に立たない」と決めつけたりしないでください。やってみれば何とかなるものです。知識や経験はお荷物にはなりません。それを生かせるときがくればプラスになり、使わなければゼロかもしれませんが、マイナスになることはありません。思いがけない時に必要になるものでもあります。ただし、経験に頼りすぎることは「決めつけ」につながる人が多いので気を付けてください。人間関係でも「決めつけ」が他の人の本当の姿を見えなくしてしまいます。「どうせ」も禁句です。

2つめは、遠藤周作の「話すことが苦手なら、聞き上手になればよい。」という言葉です。コミュニケーションは話すことと聞くこととで成り立っています。無反応で聞くのではなく、相手に共感しながら、相手の言いたいことを最後まで聞くことは実は難しいことです。よいインタビュアーがよい話を引き出すということもよくあることです。これは、苦手なことを克服しようとするのもいいが、自分自身の別の長所を生かすことも一つの方法ではないかということの意味しています。できないことばかりに目を向けず、生かせる長所を自覚することは、気持ちを楽にしてくれると思います。

卒業は、次のステップへのスタートラインでもあります。これからの皆さんの人生に幸多かれと祈っております。